

男性と女性では心臓血管病の最初の発症様式が異なる

男性と女性で心臓血管病の最初の発症様式に違いがあるかについて、住民対象の前向きコホート研究を実施し、検討した。

試験開始時において心臓血管病の既往がない 55 歳以上のオランダ・ロッテルダムの住民 8,419 人（女性 60.9%）を対象とした。20.1 年の追跡期間中に、2,888 人が心臓血管病を発症した（冠動脈性心疾患 826 人、脳血管疾患 1,198 人、心不全 762 人、その他の心臓血管病による死亡 102 人）。55 歳時点での心臓血管病の生涯リスクは、男性が 67.1%、女性が 66.4%であった。心臓血管病の最初の発症様式それぞれについての生涯リスクは、男性では冠動脈性心疾患が 27.2%、脳血管疾患が 22.8%、心不全が 14.9%、その他の心臓血管病による死亡が 2.3 であった。女性についてはそれぞれ 16.9%、29.8%、17.5%、2.1%であった。一生に発生したイベント数を男女で比較すると、女性は男性に比べて心臓血管病－7 例、冠動脈性心疾患－102 例、脳血管疾患 70 例、心不全 26 例、その他の心臓血管病による死亡－1 例（1000 人当たり）となり、また、初発年齢はいずれも女性のほうが高かった。

今回の研究により、女性と男性の心臓血管イベントの発症率は同程度であるものの、女性では最初の発症様式として脳卒中や心不全が多いことが示された。

出典：British Medical Journal. Published online Nov 17, 2014; 349: g5992